

# スポーツ組織における主務のコーチング能力について

橋本 修平 (競技スポーツ学科 コーチングコース)  
指導教員 佐々木 直基

キーワード：コーチング能力、マネジメント、主務

## 1. 緒言

大学のスポーツ組織(団体)の多くには「主務」と「マネージャー」いう役割を担う人が存在し、ほとんどがそのもの達で運営、管理されている。

運営・管理するといったことからマネージャーにも人を導く、動かすといった意味でコーチング能力が必要不可欠であると考えている。だが、そのような研究や文献は見当たらない。筆者も実際に活動を行っていたが、その際に、自分の行っているマネジメントが相手にとってプラスであるのか、また指導者は主務の位置づけをどのように考えているのかが不明確であった。

そこで本研究では本大学の部活動に着目し指導者が考えている主務またはマネージャーに必要なコーチング能力について調査し、その課題と果たすべき役割を整理することで、主務・マネージャーに必要なコーチング能力を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法および対象

本学の強化種目 11 種の指導教員 12 名に主務・マネージャーのコーチングについてアン

ケート調査を実施し、それらをSCATの手法に従い分析を行った。

## 3. 結果・考察

SCATを用いて分析を行ったところ、主務・マネージャーは指導者たちにコーチング能力を求められていることが明らかになった。またそのコーチング能力の背景には「ライフスキル」の習得が必要であることがわかった。その中でも特に、「目標設定スキル」と「意思決定スキル」に焦点が当てられていた。

## 4. まとめ

本研究で得られた知見は以下の通りである

1. コーチング能力の必要性
2. 存在意義と責任感
3. 意思決定スキル
4. 目標設定スキル
5. ストレスマネジメント
6. 社会に出て恥ずかしくない人間像

これらの要素・能力を意識しながら日々の活動に取り組み、成功や失敗を繰り返しながらその能力を高めていけばチーム・組織を目的地まで導く存在になれると考えられた。

## 参考文献

- ・大谷 尚 (2007) 4ステップコーチングによる質的データ分析手法 SCATの提案 - 着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き - 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要第54巻第2号(2007年度)
- ・WHO (1997) WHO ライフスキ教育プログラム. 大修館書店: 東京. p12 - 23.

表1. 指導者AのアンケートによるSCAT

番号	執筆者	テキスト	(1) テキスト中の注目すべき箇所	(2) テキスト中の留意点	(3) 注目する点(1)と(2)の両方)	(4) (1)と(2)の両方とも注目を集めた箇所を抽出して	(5) 疑問・課題
1	研究員	指導者と主務(マネージャー)の指導方法を考えられているのでしょうか。理由を教えてください。					
2	研究員	あなたが主務(マネージャー)では役割が異なるため指導方法を考えられている。方法をどう考えられているのかを教えてください。	選手、役割、指導法、主務、方法、内容	プレー、マタジック、指導方法の重要性	役割による考え方の違い	役割の違いによる指導の違い	
3	研究員	あなたが主務(マネージャー)を指導するうえで最も大切にしていることは何ですか？	ヒート/水/情報、報告-連絡-相談	役割、コミュニケーション、ライフスキル	チーム運営、伝えることの重要性	チーム運営をする上で関係するもの、選手、監督の優劣	
4	研究員	あなたが主務(マネージャー)の役割をどのように考えていますか？	チーム運営、選手、マネージャー、主務	多職種、監督、指導、人間関係、意思決定、共通性、自己意識		指導者が何を求めているのか	
5	研究員	あなたが主務(マネージャー)へのコーチングが必要だと感じていますか？	チーム、成功、選手、マネージャー、主務	指導者が少ない、考え、学生=非学生、学生=本人		コーチングの重要性、指導との関係性	
6	研究員	あなたが主務(マネージャー)を指導するうえで最も大切にしていることは何ですか？	チーム、成功、選手、マネージャー、主務	指導者が少ない、考え、学生=非学生、学生=本人		コーチングの重要性、指導との関係性	
7	研究員	あなたが主務(マネージャー)を指導するうえで最も大切にしていることは何ですか？	チーム、成功、選手、マネージャー、主務	指導者が少ない、考え、学生=非学生、学生=本人		コーチングの重要性、指導との関係性	